

8月度 福祉部 びしゃもんサロンが開催されました。



8月1日、毘沙門台集会所で「びしゃもんサロン」が開催され37名が参加され被爆体験を学びました。

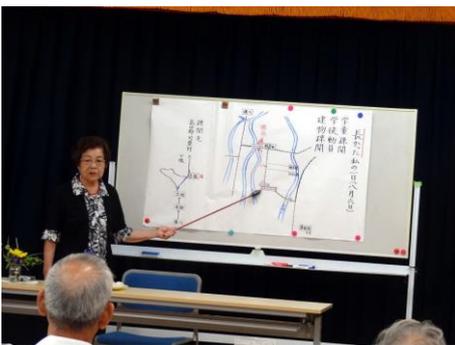
毎年8月のサロンは、毘沙門台在住の被爆体験をお持ちの方を招き、「平和を考える」サロンとして、孫世代の子ども達にも参加して貰い伝承していく取組みを継続的に開催しています。今回、被爆体験を語っていただいたのは、永井 英子 様（毘沙門台4丁目在住）です。当日は、広島市中区千田町にあった広島貯金局に学徒動員で勤務中に被爆されたそうです。ご本人も爆風を受け重傷を負いながら焼け野原となっている市街の焼けた道を必死に歩きつづけ故郷である高田郡吉田町の実家に帰りたい一心から中心部をのがれ、可部を経て高田郡上根にたどり着くまで一心不乱に歩き続けられたそうです。

市内の至る所で見つかる助けを求める人々の無残な地獄絵を見ながら不思議にも怖さは覚えなかったと語られていましたが、母に会いたい一心でひたすら歩き続かれたものの上根峠を登りきったところで倒れる寸前に、地域の方に助けられ、これ以上夜道の移動は危険と引き留めて下さり民家に泊めて頂いたそうです。翌日には軍用車に乗せてもらい吉田の実家にたどり着くことが出来たそうです。

上根地区で受けた親切は今でも身にしみていると話されていました。市民の犠牲の上での今の平和を決して忘れてはならないと痛感したサロンとなった。



学区社会福祉協議会 事務局 林 裕



写真：HP 委員 東2丁目 瀧口 秀隆